学校番号	１０９

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「古典Ｂ」（教育出版）						
副教材等	「古典文法」（京都書房）・「核心古文単語３５１」（尚文出版）・「漢文必携」（桐原書店）・「プレミアムカラー国語便覧」（数研出版） 「現代文共通テスト対策　完答１６」（尚文出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

古典の長文を自分で解釈・鑑賞できるように、文法・単語を繰り返し復習し、３年間の古典学習の総括として、古典の世界を味わいましょう。

２　学習の到達目標

古典としての古文や漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
古文や漢文を自分自身で読み、理解する力を育てる。
進路実現のための古典の学力を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c：書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めようとする。			古典作品を読み、鑑賞できるために、文法や語彙、古典常識に関する知識を身に着け、文章を口語訳し、読解できるようにする。	古典の理解に役立てるため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	定期考査 提出物 小テスト 発表等			定期考査 提出物 小テスト 発表等	定期考査 提出物 小テスト 発表等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1	源氏物語	・長編物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み取る。 ・和歌を含む物語を読んで、物語における和歌の役割を考える。 ・敬語や助詞・助動詞の知識を確認し、解釈にいかす。	◎			◎	○	a:登場人物の心情を理解し、読み味わうことができる。 d：正確な口語訳ができる。和歌を訳し、込められている心情を読み取ることができる。 e：文法、単語、文の構造について理解できる。	定期考査 提出物 小テスト 発表等により評価する
1	日記文学(紫式部日記・蜻蛉日記)	・登場する人々の考え方や行動を把握する。 ・現代の常識と当時の考えとの違いを理解する。 ・敬語や助詞・助動詞の知識を確認し、解釈にいかす。	○			◎	○	a:古代の人や宮廷生活の価値観を、現代と比較する。 d：敬語の理解を踏まえた、正確な口語訳ができる。 e:文法、単語、文の構造についての理解を得る。	定期考査 提出物 小テスト 発表等により評価する
1	文・思想	・唐宋八家文を読み、優れた文章の論理的構成を学ぶ。 ・口語訳をふまえ、たとえ話が何をたとえたものか理解する。 ・句法の知識を活用する。	○			○	◎	a:たとえ話の構造を理解し、思想家の説得力のある文章について知る。 d：口語訳ができ、思想を読み取ることができる。 e：句法、単語、文の構造についての理解を得る。	定期考査 提出物 小テスト 発表等により評価する
2	大鏡	・藤原師輔や道長など一人の人物に焦点を当て、彼に対する作者の評価や、人物像を理解する。 ・歴史叙述の方法について理解する。 ・敬語の使われ方を理解し、作者の考えを読み取る。	○			◎	○	a:歴史物語における歴史の叙述方法について興味を深める。 d：敬語を正確に理解し、口語訳ができる。 e：文法、単語、文の構造についての理解を得る。	定期考査 提出物 小テスト 発表等により評価する

2	評論・歌論「毎月抄」「玉勝間」	・筆者の歌や言葉、思想に対する考え方を理解する。 ・歌論の構造を理解して、口語訳する。 ・正確な口語訳を踏まえ、筆者の考えと自身の考えを比較する。 ・形容詞の意味を覚え、正確に訳せるようになる。	○			○	◎	a：筆者の主張するものの考え方、歌についての捉え方を、現代の思想と比較する。 ｄ：歌論の構造を考えた口語訳ができる。 e：単語の正確な訳ができる。	定期考査 提出物 小テスト 発表等により評価する
2	史話「廉頗と藺相如」	・登場人物の行動、考え方を理解する。 ・故事成語の意味を知る。 ・長い漢文の文章について、要点を抑えて内容を把握できるように読む。	◎			◎	○	a：登場人物の行動理由を考え、当時の人々の考え方を理解しようとする。 ｂ：要点を把握し、短い時間で長文を読み解けるようになる。 e：句法、単語、文の構造についての理解を得る。	定期考査 提出物 小テスト 発表等により評価する
2・3	古典問題演習	・副教材の問題集や入試問題を用いて、さまざまな作品に接し、多様な価値観を理解する。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・文法事項・句法・表現技巧等を確認し、解釈に生かす。 ・3年間の総復習として、また、進路実現をめざして、古典の総合的な理解を修得する。	○			○	◎	a: 古典の作品から読み取れる思想について理解を深める。 ｄ：文章の内容を短時間で把握できるようになる。 ｄ：問題演習を通じて、正確な口語訳ができるようになる。 e:文法、単語、文の構造についての理解を得る。	定期考査 提出物 小テスト 発表等により評価する

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す能力・聞く能力　ｃ：書く能力
　　ｄ:読む能力　　e:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。